

198. 当院における基質特異性拡張型βラクタマーゼ産生菌による菌血症に対する抗菌薬初期選択が与える影響について

研究の概要

抗菌薬は使いすぎると耐性菌（抗菌薬が効かない細菌）を増やすことにつながります。カルバペネム系抗菌薬は、多くの種類の細菌に対して効果を現し、また、他抗菌薬に耐性となった細菌にも効果を現す薬です。近年、カルバペネム系抗菌薬に耐性となる細菌の報告もあり、そのため、適正に使用するよう厚生労働省より提言されています（AMRアクションプラン2023 - 2027）。耐性菌の1つである基質特異性拡張型βラクタマーゼ（以下、ESBL）産生菌（抗菌薬を分解する酵素を作り出す細菌）による菌血症（血液中にESBL菌が存在している状態）治療として、カルバペネム系抗菌薬が推奨されています。しかし、カルバペネム系抗菌薬以外にもESBL産生菌に抗菌力を示す抗菌薬が多数報告されています。今回、熊本医療センター（以下、当院）外来受診時に血液培養よりESBL産生菌が検出された患者さんにおいて、臨床的特徴と治療開始時に投与された抗菌薬を調査することにより、初回に選択された抗菌薬ESBL産生菌による菌血症に対する治療効果を明らかにすることができ、抗菌薬の適正使用に貢献できると考えます。

研究の目的と方法

本研究の目的は、治療開始時の抗菌薬選択が、ESBL産生菌による菌血症の治療効果に与える影響を明らかにします。本研究の方法は、当院外来受診時の血液培養結果よりESBL産生菌が検出された患者を対象とします。日常診療で得られた臨床データ（診断名、血液培養結果、入院期間、抗菌薬投与期間、転帰、年齢、性別、身体所見や生化学検査など）を電子カルテから集計・統計分析を行う後ろ向き研究です。

本研究の参加について

これにより患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。本研究にご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございました際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

調査する内容

本研究は、令和2年4月1日～令和5年3月31日の期間中、国立病院機構熊本医療センターに入院し当院外来受診時の血液培養からESBL産生菌が検出された患者さんを対象としています。新たに試料・情報を取得することはなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。研究終了後の収集したデータは、鍵をかけたファイルにて5年間保管のち、破棄いたします。

調査期間

研究対象期間：令和2年4月1日～令和5年3月31日まで

研究実施期間：倫理委員会承認後～令和6年3月31日まで

研究成果の発表

調査した患者さんのデータは、集団として分析し学会や論文で発表します。また、個々の患者さんのデータを発表するときも個人が特定されることはありません。

研究代表者

熊本医療センター 薬剤部 宮田拓周

当院における研究責任者

熊本医療センター 薬剤部 宮田拓周

問い合わせ先

熊本医療センター 薬剤部 宮田拓周

電話：096-353-6501